

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



### 合田 直弘

日本から“レジエンド”武豊騎手が世界選抜チームのキャプテンとして参加する、英國アスコットを舞台とした国際騎手対抗戦「シャーガーC（8月11日）」であるジョセフ・ゴードン（25歳）を、今月のコラムでは紹介したい。

93年5月16日に、英國南西端デヴォンシャーのティヴィアートンという街に生まれたジョセフ・ゴードン。母のシェリルさんが馬好きで、25頭ほどの預託馬を世話する牧場を営んでいたことから、彼女自身も幼少の頃から馬に親しみ、14歳の頃からボリーレースに騎手として出場。16歳の時にユーマーケットにあるブリティッシュ・レーシング・スクールに入学し、卒業後はワーキング・シャーを拠点とするアマネル・マーフィー調教師や、ランボーンを拠点とするジョー・ヒューズ調教師の下で研鑽を重ねた。

プロデビューしたのは19歳の時で、13年9月4日にバース競馬場で行われた開催で、ジョー・ヒューズ厩舎のチエスター・ズリトルジエムに騎乗してハンデ戦（芝5F160y）を制し、初勝利を挙げている。

しかし、その後は騎乗機会に恵まれず、15年6月に2勝目を挙げるまで、実に2か月にわたって未勝利の期間を過ごすという、雌伏の時代を経験している。この間、アメリカへの移籍を模索したり、騎手を

辞めて攻め馬手に転身することも考えたが、辛抱強くチャンスを待ち続けたところ、15年の後半からランボーンのスタン・ムーアのコラムでは紹介したい。

女性騎手選抜チームのキャプテンを務めるジョセフ・ゴードン（25歳）を、今月3人目となる見習い騎手チャンピオンのタイトルを獲得している。

そして、ユーマーケットに拠点を置くヒューゴ・パーマー調教師と契約を結んだ17年は、前年を上回るペースで勝ち星を積み重ね、11月25日にウルヴァーハンプトン競馬場で行われた開催の第1競走に組まれたノーヴィス（AW8F142y）で、自厩舎のサンダーボルトロックスに騎乗して勝利し、年間勝利数が100の大台に到達。08年のヘイリー・ターナー以来となる、史上2人目の女性騎手による年間100勝を達成した。さらに、年末までに勝ち星は106まで伸び、女性騎手としての年間最多勝記録を樹立している。

この年の6月には、マッセルバラ競馬場で行われた開催で、同じく自厩舎のアン・フォーゲッタブルファイリーに騎乗してLRマギーテイクソンS（芝7F33y）を制し、特別初制覇。翌7月には、ユーキャツル競馬場で行われたG3チップチャイスS（AW6F）を、これも自厩舎のコロピックで制して念願の重賞初制覇を達成。さらに

9月には、ユーマーケットのG3プリンセスロイヤルS（芝12F）を、これも自厩舎のアッフィアで制し、2度目の重賞制覇を果している。

シャーガーCには、16年に初参戦。翌17年も女性チームに選抜されていたのだが、同日にユーマーケット競馬場で行われたG3スウェイートソレラSにパーマー厩舎からジョーゼーが走り、そちらの騎乗を優先することになり、シャーガーCは直前で辞退していた。

今季のジョセフ・ゴードンは、ウイリーアム・ジャーヴィス厩舎のミセスギャラガー（牝3、父オアシスドリーム）で、LRランズダウーンS（芝5F10y）、LRパロニアS（芝5F110y）と2つの準重賞を制しているのを含めて、26勝をマーク（7月11日現在）。シャーガーCでは初めて、女性選抜チームのキャプテンを任せされることになった。

御馴染みのヘイリー・ターナー（35歳）、デビュー5年目だった昨シーズンに自己最多となる年間59勝を挙げたホーリー・ドイル（21歳）に、ジョセフ・ゴードンを加えた女性チームがどのようなパフォーマンスを披露するか、日本の競馬ファンの皆様もシャーガーCにぜひご注目いただきたい。